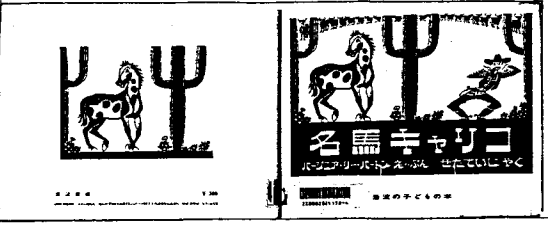


子どもたちといっしょに ^{岩波の} 子どもの本
「名馬キヤリコ」バージニア・リー・バートン ^{エ・ブーン}
せたていじやく



バージニア・リー・バートンは、自分の子どもにおはなしを作、て語り、絵を描いていたお母さんから、世界中で親しまれる絵本作家になった人です。この絵本も、きっと息子さんに、西部劇が当時大流行していた頃に、この物語を作、て、大喜びされたのでしょうか。白黒の映画さながらの、絵本であるのに、しかも小型の絵本であるのに、登場する人の声や、馬の蹄の音、土ほこりが目の当りに浮んでくるのです。紙の色もく色あり、表紙裏には、子どもが楽しめるように工夫されていて凝った作りになっています。バートンの絵本は、他にも「ちいさいおうち」「いたずらきかんしゃちゅうちゅう」「せいめいのれきし」「マイク・マリガンとスチーヴ・ジョベル」などがあり、どれも凝った作りになっています。ご家族で、ごゆっくり、楽しんでみて下さい。「ちいさいおうち」の表紙裏の絵は何を描いているか、おわかりになることと思いますが、とても楽しいです。ぜひ!

第15回読書会「美しい恋の物語」
ちくま文学の森!

1月の行事



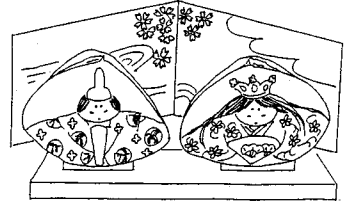
藤村の初恋から、モーリガンの「未七人」、菊池寛の「藤十郎の恋」など

5 (土)	冬休み映画祭 10:00
6 (日)	冬休み映画祭 10:00
9 (水)	絵本のじかん 3:00~
12 (土)	おはなし会 10:00~11:30 おはなし会 3:00~
16 (水)	絵本のじかん 3:00~
19 (土)	おはなし会 ゲスト 市民生活課長
20 (日)	第15回読書会 1:30~3:30
23 (水)	絵本のじかん 3:00~
26 (土)	おはなし会 10:00~11:30 おはなし会 3:00~
30 (水)	絵本のじかん 3:00~

多様な作家の短篇集です。ご参加をお待ちしています。本はカウンターで用意いたします。
日時・1月20日(日) 1:30~3:30
場所・白根学習館1階
(しろね図書館・しろね図書館友の会 共催)

お知らせ かわいのおひなさまをつくりませんか?

「貝ひな手づくりの会」(かわいこは、カウンターにおいてある4ラジエジさん下)
日時・2月3日(日) 1:30~4:00
場所・白根学習館2階 創作活動室1
小学3年生以上からおとな迄、申し込みは 372-5570へ



しろね図書館だより

発行 白根市立図書館
平成14年1月1日
No. 20

新年おめでとうございます 今年も図書館のご利用をお待ちしております

今年にちなんで冒頭から本の紹介をします。この本の原題は THE MARVELLOUS MONGOLIAN (驚くべき蒙古人) というものですが、蒙古野馬の物語が物語は、蒙古の少年と、イギリスの少女のやりとりする手紙で構成されています。表紙の左側が、この物語の主人公、蒙古野馬のタチです。右側がイギリスの馬(ヒュー)のヒープです。



タチが種保存のために、捕えられ、イギリスのウェルズの野生動物保護地に連れて行かれ、ヒープと知り合い、ヒープを連れて、保護地を脱出して、蒙古に帰ります。一言で言ってしまうと、こんな物語ですが、あの長い道のりを、海も越えてどうやって? それに、数々のドラマがどのように展開して? と、読みながら、ワクワクしてきます。理性的で沈着なタチと、けなげなヒープは、馬の世界を借りた、人間の生き方を問う途に、心の扉をたたいてくれるのです。ご一読をおすすめします。これを読んだら、同じ作者の「ある小馬裁判の言」もおすすめ本です。(ティーン933オの今月の展示架と)

12月の
来館者 12,150人
貸出冊数 13,517冊
予約件数 214件
ブックバス利用者(2地点のみ) 32人
ブックバス貸出冊数 67冊

リクエスト小情報(しばらくお待ち下さい)
1位・ハリ・ポッターと賢者の石 (27人)
2位・ハリ・ポッターと秘密の部屋 (20人)
3位・ハリ・ポッターとアズカバンの囚人 (14人)
4位・千と千尋の神隠し (11人)

21世紀2枚目の扉が開かれました。足を踏み入れたばかりの2002年は私に何をを見せてくれるのでしょうか。この期待感が私のエネルギーの源になっているのです。昨年は良くも悪くも新世紀を象徴するようないろいろの出来事がありました。私のごく身近なことであると、暮れも近くなって私は大きな大きなエネルギーをもらいました。

ミュージカル「リバー・ピープル」 たくさんの方がご覧になり、それぞれの感動があったと思います。私はこのミュージカルを視覚障害者の方々と一緒に楽しみました。お誘いした時には「目も見えないのに舞台を観にいても……」と二の足を踏まれる方が多かったのですが、「歌や台詞で充分に楽しめますよ」とお勧めして、腰を上げて下さった方が3人あり一緒したのです。80歳を過ぎているというNさんは、更に「トイレが近いので」という不安ももらされて、「その時は席をはずしましょう」と出入りしやすい席を選んで坐りました。ところが舞台が始まるとすっかり引きこまれて中座することなく観劇を続けたのです。

終わって「楽しんでいただけましたか」とおたずねしたら

「楽しんだなんて言うもんでねえて。言葉も出ねえて」と感受性の強いEさん
 「こんなところへ来てみられるなんて思ってもみねかったわね。いいホールが出来たとは聞いていたけど、目の見えない者には関係ねえと思ってたのに、こんげしてさあ……」
 「目が見えぬすけ、舞台は見えないけど、もしかしたら目で見ている人よりもっとすごい舞台を、私はイメージの世界で見たと思う。」

ぼつり、ぼつりと述べられる感想を聞いているうちに、今度はこの人達以上の感動が私の胸に広がってくるのです。

私は見えるがために、目に見えない物をたくさん見落としているような気がしてきました。そして、それに気付かせてくれる友人を持たたことはなんて素晴らしいことだろうとしみじみ思いました。

目の代わりとして本をテープに吹き込んでいる私ですが、きっと私が感じた何倍もの思いをテープ読者は1冊の本から感じ取ってくれているのでしょう。彼等には及ばないまでも、文字を音声にして伝える「音声訳」に出会えて私自身も目だけで読んでいた時よりずっと深い世界に触れることが出来た事は確かです。

1冊の本に込められた無限のメッセージをより多くの人と共有するために、今年もマイクに向かって読もうと、心新たに思うのです。

音声訳ボランティア 大井京子

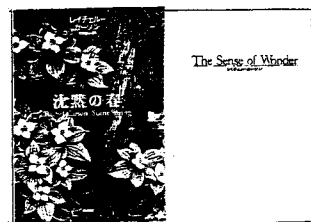
蔵書点検に伴う休館のお知らせ

蔵書点検のため、2月4日(月)から2月18日(月)まで 図書館を休館させていただきます。このため、1月22日(火)からの貸出については、冊数の倍貸と貸出期間の延長を行います。ご迷惑をおかけすることになりますが、ご理解とご協力をお願いします。

『沈黙の春』 レイチェル・カーソン／著 青樹葉一／訳 (新潮社)

先般、テレビ番組で紹介されこともあり、思いついて押入れの奥にしまい込んでいた本を取り出して読んでみた。外観はかなり薄茶けてしまったが、その内容は輝きを失うことなく、今なお多くのことを私たちに教えてくれる。

1962年にアメリカ国内で出版された本書は、殺虫剤などの農薬が環境や生物に世代をこえて影響を与えることを初めて警告したものである。「環境汚染」という言葉は、今を生きる私たちにとって、重大な意味を持つと認識されている。しかし、本書の発行当時に



この言葉を知っている人は、ほとんどいなかった。このことから、発売と同時に賛否両論を呼び、著者に対する中傷誹謗もあったと聞く。たった1冊の本が、人類の未来に対する警鐘となり、進歩し続ける科学力は自然をも征服(コントロール)できると奢った人々の考え方を一変させ、時の政府を、国を動かした功績は計りしれないものがある。

IT社会で育ち、成長する子どもたちは、その未来に自然をどうとらえ、対峙して行くのか。現代社会において、環境問題は人類共通の課題であり、早急な対応に迫られている。その進むべき方向の一つを、本書最終章の「べつ道」の中で知ることができる。

「環境問題のバイブル」と言われている本書をぜひ手に取っていただき、本来なら「ものみな萌えいずる春」を、「沈黙の春：SILENT SPRING」とした、生物学者でもある著者の自然・生物に対する深い愛情を感じとっていただければと思う。

このほか、図書館にはレイチェル・カーソン氏の著書として「センス・オブ・ワンダー」、「潮風の下で」及び「失われた森」があり、合わせてお勧めしたい。

(副館長 関根 律)

今月の展示架は『午』の本を集めました。ご利用ください。

絵本『スーホーの白い馬』から



そして、物語を貫いている貴船神社の祭神である竜神、すなわち蛇。神社の森に山に棲む蛇。三緒子の心の中に棲む蛇の存在も重く。

以前、この本は読んでいたことがあるが、その時は読みとぼけてしまったと思う。今回はじっくりと読んでみた。思ってた以上に、私もまだ自分探しの、自分の居場所探しの途上にいる人だと気づいた。また、私の心の中に棲む何かの存在のことも考えた。

それにしても、離婚するには強いエネルギーが必要で、読書会では盛り上がりがあった。あの日は、心の中に好きな男性がいる場合は別という。私には、いつまでもないかと思った。

夫と離婚して独りになりたいという思いで故郷、北陸の山間の村に帰って来た三緒子。きつかけは夫の淫気でもそれはほんのきつかけにすぎなかった。「貴船神社のお嬢さん」が欲しかったことも求婚の条件の一つだったという高校の同級生の夫との生活は、最初からそれぞれの思いがずれていた。

この物語は三緒子の自分探しと、自分の居場所探しのお話だと思った。また、中国残留孤児の和子、その息子の太一、それから頼子も。

それに比べて「大矢谷の貴船神社の若宮司さん」として、つりつと根を張った暮らしをしている異母弟と、その家族。そして、不良少年同志の喧嘩に巻き込まれ、心ならずも人を殺し、自分も顔に大怪我をし、失明してしまった幸生。今はすでに大きなことを乗り越えた人の透明さを感じさせる彼の存在。